

貼り薬について

-おくすりの話 vol.20- 薬剤部 藤田 有耶



平成28年度診療報酬改定により、一部の貼り薬(貼付剤)を対象に1処方につき70枚と処方制限が決められました。今回は、貼り薬についてお話しさせていただきます。

貼り薬は経皮吸収といって、皮膚からの吸収により作用します。

貼り薬は、大きく2種類に分かれます。

貼った部分だけに効くもの・消炎鎮痛剤

全身に作用するもの

- ・狭心症治療薬・喘息治療薬
- ・禁煙補助剤・認知症治療薬など

この全身に作用する貼り薬を経皮吸収型製剤といいますが、体に貼っている間は一定の速度で持続的にお薬が体に吸収されます。利点としては、服用する必要がないため、薬嫌いの方やお薬や食べ物が上手く飲み込めない方、認知症のために口からお薬を飲むことが難しい方に有用です。また、飲み薬に比べて胃や腸への負担が少ないこと、副作用が現れたときにすぐに剥がして中止することができる(多少お薬の作用は持続します)などの利点があります。

貼付剤の種類は？

パップ

貼付面に水を多く含み、粉末状の薬効成分や精油成分などを含ませた糊状または泥状のもの



テープ

ほとんど水を含まず、プラスターよりもさらに薄型。



プラスター

プラスチック製フィルムに薬剤を伸ばしたもので、粘着剤が配合されており剥がれにくい



パッチ

極めて薄くシール状になったもの

貼付剤の貼り方は？

ぴったりと貼らないと薬の効果が最大限に発揮されない可能性があります

何枚貼ってもいい？

貼った部分だけに効く貼り薬でも、複数枚貼り長期連用すると、全身性の副作用が起こることがあります。

切ってもいい？

消炎鎮痛剤は貼り薬の種類によらず、切って貼ることが出来ます。

しかし、狭心症治療薬など一部の貼り薬は薬の成分が流れ出てしまったり、薬の吸収に影響が出てしまうことがあるため、医師や薬剤師の指示がない限り自己判断で切って使用することはやめましょう。

貼ったまま入浴してもいい？

貼ったまま入浴できる貼り薬もあります。

しかし、入浴することで血流が促進し、薬の作用が強くなってしまったり、副作用が起こる場合もあります。また、剥がれてしまう可能性も高くなりますので、入浴後に貼り替えて頂くことをお勧めします。

かゆみ、かぶれなどが起きたら？

どの貼り薬でも共通して起こりやすい副作用が、皮膚のかゆみやかぶれといった接触皮膚炎です。

貼り薬に含まれている粘着剤や吸収促進剤などの添加剤による化学的刺激が原因と考えられています。他には、汗や蒸れなども刺激の原因になります。一般的には、剥がして1~2日で消失・軽減するため、予防法として「同じ場所に貼らない」「保湿などのスキンケア」を行うことで防げます。何日経っても皮膚症状の改善がみられなかったり、炎症症状がひどい場合は皮膚科に受診しましょう。

処方された用法用量をしっかりと守り、正しく使用し治療していきましょう。

何かご不明な点があれば、いつでも薬剤師にご相談ください。

